

ACTION PLAN 2016

【2016年～2021年】

2018年度成果報告書



国立大学法人

宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY



ここに、「ACTION PLAN 2016 2018年度成果報告書」を公表いたします。

第3期中期目標・中期計画のスタートにあたり、宇都宮大学は、6年間重点的に取り組む内容について4つのVisionを掲げ、これを達成するための方策を、5つの重点戦略と12の取組(A~L)にまとめ、機能強化の取組構想としました(右頁参照)。そして、これを大学の内外の方々に知っていただくために ACTION PLAN 2016【2016年~2021年】を公表しました。本報告書は、プランに掲げた各取組の3年間の進捗状況を示したうえで、2018年度の特徴的な取組・成果を中心にまとめたものです。

戦略毎の主な成果を以下にお示しますが、十分に取組みなかつたものが一部にあるものの、全体としては概ね順調に進んでいると思われます。第3期も今年度から後半戦に入ります。初年度に築いた全員協働体制を基盤として、目標の早期実現とさらなる飛躍に向けて、教職員一同、力を合わせて頑張りたいと思います。

*なお、取組毎に示した進捗度は、中期目標・計画期間(6年間)に対する2018年度末(3年間)の進捗状況を各担当理事が自己評価して図示しました。

2019年6月 宇都宮大学長 石田朋靖

-
- 「戦略①地域の知の拠点形成」:**平成28年度に設置した地域デザイン科学部では、設置3年目を迎え、本学部のコア科目である3年次学部共通科目「地域プロジェクト演習」を開講しました。3学科の学生が混成グループを編成し、県内11の自治体で全28テーマについて地域のパートナーとともに1年間かけて地域の課題解決策提案を目指して活動を行い、成果発表会は多くの学外者の参加を得て盛況に行われました。次の学年に成果を継承し進化し続けていくことを期待しています。昨年度設置した「地域創生推進機構」では、社会人の学び直し機能を担う「宇大アカデミー」において、新たに「UUカレッジ」を開講し、54名の受講者を受け入れました。社会人が自らの希望に基づいて本学の正規科目を受講する本カレッジへの期待は大きく、今後さらにプログラムを拡張していく予定です。第3期の重要課題である新大学院設置については、本年4月、1研究科2専攻16学位プログラムから成る文理融合・分野融合の大学院「地域創生科学研究科」を開設しました。全国のモデルケースとなるよう、教育・研究にしっかり取り組んで参ります。
- 「戦略②地域人材育成の基盤強化」:**アクティブ・ラーニングは、マニュアルや事例集の作成・充実によりアクティブ・ラーニング指導法が浸透した結果、2018年度開講科目では、ほぼ100%がアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業として開講され、学生の受講率もほぼ100%となりました。教育学部は、群馬大学教育学部との共同により、全国初となる「共同教育学部」の設置を決定し、令和2年度の設置を目指して本年4月に設置計画書を提出しました。地元インターンシップの参加者が対前年度1.7倍となり、これも一因となって高い就職率を維持しています。「宇都宮大学3C基金」による学生支援事業も徐々に人数・支援額を増やしており、今後も学生支援の充実を図って参ります。
- 「戦略③グローバルリーダーの育成」:**海外の大学との交流協定締結は着実に数を増やしました。高大連携事業には昨年度の2倍を超える約3,200名の参加があり、過去最多を更新しました。中でも、グローバルサイエンスキャンパス事業では、受講者の研究が学術誌に掲載されるなど高い成果を上げ、これらの実績が評価されて事業が再採択されました(H31~R4)。昨年度開始した中高一貫校との中大連携事業も1,000名を超える参加がありました。また、SDGs(国連が定めた「持続可能な開発目標」)に関する事例集を作成し、HPで公表しました。これを基に、SDGsの達成に向けた取組を加速化させていきたいと思います。
- 「戦略④地域イノベーションの創出」:**昨年3月に完成した「ロボティクス・工農技術研究所(通称:REAL)」が本格的に稼働しました。ロボティクスによる実証技術の開発に取り組み、地域イノベーションの創出拠点としての役割を積極的に果たしていきます。大学全体の研究業績は堅調な伸びを示しており、特に、若手教員が取り組んだ革新的研究が成果を上げ、世界的な注目を浴びています。今後の更なる進展とともに、追従する研究成果が現れることを期待しています。
- 「戦略⑤ガバナンス改革」:**柔軟な人事制度によって優秀な若手教員や女性教員の積極的な登用を進めました。その結果、女性教員比率は着実に向上し、その成果が評価されて「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」(H30~R5)に採択されました。自己研鑽型の新教員評価制度の運用を開始するとともに、これを基に、処遇反映型の教員業績評価制度を構築しました。頑張っている教員を報奨するとともに、教員一人ひとりの意欲と成果の向上に結びつくよう適切な運用に努めて参ります。

構想の概要：「地域の“知”を創造し変革をリードする」（地域の発展を支える大学）

私たちが目指すもの＝4つのVision

- Vision 1 行動する知性を備えた人材を養成します
- Vision 2 異分野を融合した柔軟な発想で新たな知を創造します
- Vision 3 地域の強みを発揮するイノベーションを創出します
- Vision 4 構成員一人ひとりの個性を活かした協働を進めます

Visionを達成するため、第3期中期目標・中期計画期間（平成28～33年）では次の5つの重点戦略のもとで施策を進めます

戦略① 地域の知の拠点形成

新学部「地域デザイン科学部」（H28年度設置）を核として、地域の強み（地域資源・地域特性）を活かしたまちづくりを支える専門職業人の育成や地域との共創機能を強化することによって、地域の地の拠点を形成する。

取組 A 地域課題解決機能を強化し地域の知の拠点形成のために、**新学部「地域デザイン科学部」**を設置

取組 B 地域開発に貢献する高度専門職業人を育成するために、**新大学院組織**を設置

取組 C 地域との共創機能やシンクタンク機能を強化するために、「**地域連携戦略機構**」を設置：**COCの更なる発展**

戦略② 地域人材育成の基盤強化

行動的知性と実践的専門性を兼ね備え、3C精神（Challenge Change Contribution）を持って、地域において新たな価値の創造を支えることができる人材を育成する。

取組 D アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による教育の質向上サイクルの確立のために、「**大学教育推進機構**」を設置：**APの更なる発展**

取組 E 人づくりの基盤：**教職大学院**を核とする学校教育の質向上への貢献

取組 F 地域イノベーションを支える専門職業人の育成

戦略③ グローカルリーダーの育成

地域のグローバル化や地域からのグローバル化に対応する人材育成とともに、高大連携の拡充により次世代の地域リーダーを育成する。

取組 G グローバルな視点を持って地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化（**大学英語教育学会賞受賞プログラム**や「**トビタテ！留学JAPAN：地域人材コース**」等の活用など）

取組 H 次代の地域リーダーの育成：**グローバルサイエンスキャンパス**等高大連携事業推進

戦略④ 地域イノベーションの創出

－強みと特長を有する研究の戦略推進－

地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーションを創出する。

取組 I フードサイエンス、ものづくりにおける融合的イノベーションの創出：**地域イノベーション戦略推進地域支援プログラム**を核とする農工融合分野研究プロジェクトの推進

取組 J 世界に通じる先端的研究の開発・推進：**光工学研究**の国際ネットワーク形成（H27年度、**先端光工学専攻設置**）、国際的優位性を創出する**フードサイエンス**

戦略⑤ ガバナンス改革

学長のリーダーシップの発揮と教職員の意識改革に資するガバナンス改革、ならびに多様で優秀な人材の確保・活用による教育研究の活性化に資する人事・給与システム改革を行う。

取組 K 教員組織の一元化（**教教分離**）や大学運営を的確にマネジメントする「**大学教育推進機構**」の設置などのガバナンス機能の強化

取組 L 年俸制の拡大、クロスアポイントメント制度の導入、業績給の設定、女性教員採用特別制度などによる多様な人材の確保

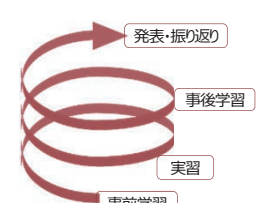
戦略別進捗度と特徴的な取組・成果

戦略① 地域の知 の拠点形 成	施策	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
戦略① 地域の知 の拠点形 成	新学部「地域デザイン科学部」でくまじぶりのプロを養成	新学部開設、地域デザインセンター設置		地域系科目の充実	「地域プロジェクト演習」開講	
	地域との共創機能強化のために「地域連携戦略機構」を設置	機構組織の検討	地域創生推進機構設置 (H30.4)		地域連携の充実・強化	
	地域活性化の中核的拠点の高度化を目指して「新大学院組織」を設置	構想検討・案決定		設置計画書提出	新大学院「地域創生科学研究科」開設 (H31.4)	
	地域における生涯学習拠点としての機能強化	宇大未来塾設立決定		宇大未来塾開講・一期生輩出 UUカレッジ開講決定	UUカレッジ開講	

地域デザイン科学部「地域プロジェクト演習」開講

主な取組テーマ (協力自治体) **全28テーマ**

- ◇今市エリア (旧日光市) における「まちの縁側」の推進 (日光市)
 - ➡ <最優秀賞・学生賞>
- ◇人口減少社会を見据えた農村地域などのコミュニティ維持形成 (宇都宮市)
 - ➡ <地域賞>
- ◇「ヨシ」のあるまちづくり (栃木市)
 - ➡ <総合成績 1位>
- ◇遊休不動産とアーバンデザイン (那須烏山市)
 - ➡ <総合成績 2位>
- ◇商店会の良さを再発見と魅力づくり (栃木市)
 - ➡ <総合成績 3位>
- ◇あしかが映像まつり (足利市)
- ◇見つけよう、本場結城紬の魅力 (小山市)




H31.2.19下野新聞

地域連携の充実・強化

自治体との連携協定締結の躍進
栃木県内全25市町中
H17年~H29年 7市町
H30年のみで +8市町
R元年6月末 +8市町
計23市町
第3期末までに全市町と締結



栃木市との連携協定締結 H31.3.28下野新聞

新大学院「地域創生科学研究科」(修士課程) 開設

H31.4 開設 当初計画より1年前倒し

改組前 4研究科15専攻

改組後 1研究科2専攻 16学位プログラム

特徴的な学位 ➡ 修士:光工学 修士:分子農学

特徴的なカリキュラム ➡ 研究科共通科目:「地域創生リテラシー」
文理・分野横断的な思考力・コミュニケーション能力を養成

「地域創生リテラシー」必修科目
「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」
講義や討論する課題の題材をSDGsの17の開発目標を念頭に設定
※SDGs:2015年に国連が定めた持続可能な開発目標



H30.9.7下野新聞

宇大未来塾の拡充 UUカレッジの開講

宇大未来塾
前期:「とちぎ志士プログラム」
若手社会人対象
第2期生:20名輩出
後期:「次世代経営マネジメントプログラム」
次世代の経営者等を対象
第1期生:25名輩出
UUカレッジ
社会人やシニア層をターゲットに学び直しの機会を提供
正課の科目からオーダーメイドのカリキュラムを作成
20名募集 95名応募 54名受講



H31.1.20下野新聞

戦略② 地域人材 育成の基 盤強化	施策	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
戦略② 地域人材 育成の基 盤強化	アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による学びの質の深化	AL拡充、学修到達度可視化システム整備		大学教育推進機構設置 (H30.4) ・AL推進	教学マネジメントガイドラインの策定	
	地域イノベーションを支える専門職業人の育成	実務家による講義の拡大		地元インターンシップの推進 地域に関する実践的科目拡充		
	学生の多様なニーズへの対応と支援体制の充実	多様な支援策の推進		就職支援・経済支援・活動支援の推進・拡充		
	教職大学院を核とした学校教育の質の向上への貢献	教職大学院のノウハウを県の教員研修に適用		学校ボランティアの推進	共同教育学部設置決定	

アクティブ・ラーニングの推進

学生のアクティブ・ラーニング科目(基盤教育科目)受講率:
H28:90% → H29:92% → **H30:100%** (専門教育科目も含めると99%)

教員のアクティブ・ラーニングに関する研修プログラム受講率:
H28:68% → H29:87% → **H30:89%** (過去に1度でも受講した率98%)

実務家による講義の拡充

H28:157科目 → H29:175科目 → **H30:219科目**

地域に関連する実践的科目の充実

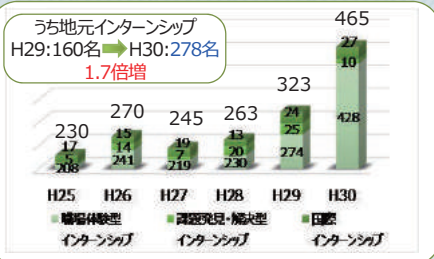
H28:13科目 → H29:43科目 → **H30:63科目**

3C基金による新たな学生支援事業

◇**飯村チャレンジ奨学金(採用枠拡大)**
チャレンジ精神を持つ経済的理由により修学が困難な学生を支援
H30:15名、総額5,400千円支給

◇**関スポーツ奨学金(新設)**
スポーツ活動と学業の両立を目指す学生を経済的に支援
H30:9名、総額900千円支給

インターンシップ参加者の増大



本学と群馬大学との共同教育学部設置を決定 <全国初>

2020年度の開設を目指し設置計画書を提出 (H31.4)

各大学の強みを活かしたシナジー効果

- ◇互いの得意分野を組み合わせたカリキュラム
- ◇グローバル社会、Society 5.0、SDGsへの対応
- ◇特別支援学校教諭の養成領域の拡大

就職支援の充実

就職対策講座等の開催

- ◇就職対策講座・セミナー:17回
- ◇就職ガイダンス:13回
- ◇適正テスト・模擬テスト:10回
- ◇合同企業等説明会:4回
- ◇各種説明会・報告会:6回
- ◇企業見学・就活ツアー:2回
- 延べ**52回** (H29:44回)

高い就職率を維持



授業効率化、20年度にも

学生は両大学で単位取得



H30.5.24 下野新聞

「共同教育学部」新設へ

人事が見る大学イメージランキング6位

日本経済新聞社が2019年2月~3月に全上場企業・有力企業を対象に調査(回答数815社)(R1.6.5日経新聞で発表)

- 調査項目
- ◇学生のイメージ
 - ◇大学の取組のイメージ

順位	大学名	得点
1	九州大学	33.41
2	京都大学	32.78
3	大阪大学	32.16
4	東北大学	32.15
5	広島大学	32.06
6	宇都宮大学	31.88
7	横浜国立大学	31.87
8	筑波大学	31.63
8	東京海洋大学	31.63

戦略③ グローバルリーダーの育成	施策	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化	次代を担う地域リーダーの育成	海外留学拡大	外国人留学生受入拡大・国際学部改組	SDGsへの取組		
		高大連携の推進	GSC事業による成果・中大連携事業に発展	高大連携の発展		

国際交流協定校の拡大

◇部局間交流協定:6校
タマサート大学(タイ:国際学部)、ベトナム国家農業大学(ベトナム:農学部) 他

H30年度末
総数**80校**

SDGs事例集の作成・公表

◇**175件**の事例を集約
教員数で換算すると半数以上が事例を紹介



ホームページで公表

高大連携の推進・発展

- ◇グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 事業、スーパーサイエンスハイスクール(SSH) などの**高大連携事業**を推進
 - ・延べ参加者
H28:1,074名 ⇒ H29:1,539名 ⇒ **H30:3,257名**
- ◇より早い段階から大学の理数科学教育に触れる機会を提供するため**中大連携事業**もH29から推進
 - ・延べ参加者
H30:1,089名 (H29:1,138名)

THE (Times Higher Education) インパクトランキング2019*にランクイン

- ◇全世界で466大学がランクイン
その中で本学は101~200位にランクイン
- ◇日本の大学では41大学がランクイン
その中で**本学は同率4位**にランクイン



*THE University Impact Rankings=イギリス TES Global 社が行うTHE (Times Higher Education) 世界大学ランキングで2019年に新たに設けられたカテゴリー:SDGsの各目標に対する取組が評価される

順位	大学名	スコア
48	京都大学	84.2
52	東京大学	83.7
91	慶応義塾大学	76.6
101-200	千葉大学	64.6-75.6
101-200	北海道大学	64.6-75.6
101-200	金沢大学	64.6-75.6
101-200	名古屋市立大学	64.6-75.6
101-200	大阪大学	64.6-75.6
101-200	岡山大学	64.6-75.6
101-200	東京工業大学	64.6-75.6
101-200	宇都宮大学	64.6-75.6
101-200	山梨大学	64.6-75.6
101-200	横浜市立大学	64.6-75.6
201-300	広島大学	53.7-64.5
201-300	香川大学	53.7-64.5
201-300	三浦大学	53.7-64.5
201-300	大津市立大学	53.7-64.5
201-300	東京理科大学	53.7-64.5

◇**グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 事業** (JST) 「君が未来を切り拓く~宇大の科学人材育成プログラム~」(H27~H30)
・基盤プラン:66名受講 ・才能育成プラン:32名受講

◇受講者の主な研究成果

- ①研究論文が研究誌 *Microbiology Resource Announcements* に掲載
- ②「第6回とちぎアントレプレナー・コンテスト」(下野新聞社主催)で優秀賞を受賞
- ③インドネシアへの研究試料採集と研修に参加しバリ島のウタナヤ大学のセミナー *Young Researchers Scientific Discussion* でプレゼンを実施
- ④国際科学誌 *Plant Biotechnology* に研究成果が掲載
- ⑤「日本古生物学学会2018年年会」に参加しポスター発表(筆頭での一般発表は大変希)

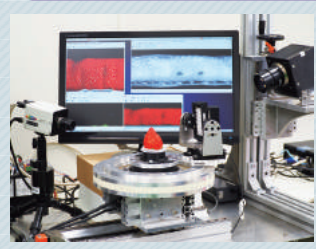
これまでの事業の取組実績、受講者の研究成果などが評価され**事業が再採択 (H31~R4:JST)**

8大学申請中3大学が採択
本学の他に採択となったのは
東京大学、広島大学

戦略④ 地域イノベーションの創出	施策 農・工・融合的イノベーションの創出 世界に通じる先端的な研究開発推進と研究支援体制の強化	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
		学内資源の戦略的配分 連携プロジェクト推進	ロボティクス・工農技術 研究所(REAL)の整備	REALの 本格稼働		
		多様な研究支援策推進	研究成果への結実	研究助成拡充 新たな資金調達		

ロボティクス・工農技術研究所の本格稼働 (Robotics, Engineering and Agriculture-technology Laboratory: REAL)

最先端の施設・設備、産学官連携の実質化によりの実用化研究が大きく進展



人視感覚色彩抽出法によるイチゴの熟度判定



自走式イチゴ収穫ロボットの移動技術を活用して製品化し販売されている「農作物搬送ロボット」

本学発のイノベーションに地域から大きな期待



H30.8.9下野新聞

クラウドファンディングによる研究資金の調達〈本学初〉

◇分野融合研究により進めてきた「きのこ個性化プロジェクト」で本学初のクラウドファンディングにより資金を調達

目標額100万円
達成額185万円

100品種にも及ぶシタケその品種や栽培法による味、香り、食感の違いを数値化して個性を明確化
ブランド化の実現

若手教員の革新的研究成果

世界初

◇児玉豊准教授の研究グループによる「植物の細胞診断法」に関する研究成果が、国際園芸科学誌 *Scientia Horticulturae* に掲載
また、昨年世界で初めて解明した「葉緑体運動に関わる温度感知と分子制御構の研究」で文部科学大臣表彰若手研究者賞受賞

屋内施設で栽培される多くの作物の葉の大きさや厚さが制御できる

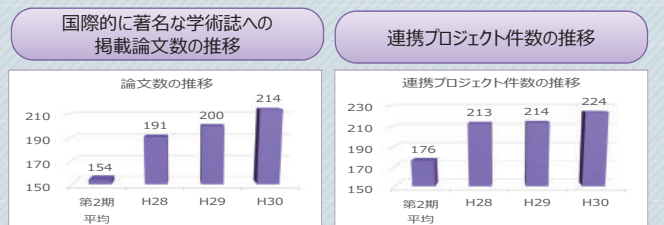
世界初

◇岡本昌憲助教らの研究チームが干ばつに強く、水を節約して育つコムギの開発に成功
本研究成果は国際学術雑誌 *Nature Plants* のオンライン版に公開された

世界規模の食糧難解消に大きな期待

少ない水でも枯れないコムギ(右)

H31.2.11下野新聞



戦略⑤ ガバナンス改革	施策 ガバナンス機能の強化と組織運営改善の迅速かつ戦略的実施 多様で優秀な人材の確保と開かれた研究環境の創出	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
		教教分離開始、学長補佐体制・監事機能強化	新内部質保証システムによる部局評価	戦略企画本部の設置		
		女性・若手教員増加 年俸制拡大	宇大版デュアトラック制度 導入・新たな教員評価制度構築	処遇反映型 評価制度構築		

女性教員への支援

◇女性研究者研究活動支援事業(H25~H27:JST)の高い評価
◇女性教員採用特別制度の採用
学長戦略経費による経費支援

女性教員比率の漸増

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」(H30~R5:JST)に採択

処遇反映型(業績)評価の構築

新たな教員評価制度の構築(自己研鑽型評価)
H29試行⇒H30実施⇒H31見直し

評価結果の一部を援用

質の高い教育の提供(学生からの高い授業評価)
高い研究成果(IF値の高い論文の生産)
外部資金獲得力(科研費・外部資金の獲得額)

学長による処遇への反映

大学戦略企画本部・戦略企画チームの設置

社会の流れや大学を取り巻く変化に柔軟かつスピーディーに対応するため執行部で組織する「大学戦略企画本部」を設置し、この下に教育、研究、経営に関する課題に対応するため3つの戦略企画チームを設置(H31.4)

戦略企画チームの特徴

- ◇各チームをリードするのは複数名の理事
- ◇チームメンバーは教員と事務職員⇒教職協働
- ◇選出メンバーの中心は中堅の教職員⇒次世代のリーダーを担う若手人材の育成に寄与

教育戦略企画チーム	理事2名+教員6名+事務2名【主任務:大学教育の質保証・向上】
研究戦略企画チーム	理事2名+教員6名+事務3名【主任務:研究力向上】
経営戦略企画チーム	理事3名+教員5名+事務3名【主任務:教育研究基盤・ガバナンス強化】

宇都宮大学概要

理念・基本姿勢・スピリット

- 理念
『人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する』
- 基本姿勢
『“地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い”という姿勢を大切に、「地域の知の拠点」として変革をリードする』
- スピリット
『～明るい未来を開拓するために～主体的に挑戦し（Challenge）時代の変化に対応して自らを変え（Change）
広く社会に貢献する（Contribution） 宇大スピリット＝3C精神』

基礎データ

- 入学定員（単位：人）

学部	入学定員	研究科	課程	入学定員
地域デザイン科学部	140	地域創生科学研究科	修士課程	335
国際学部	90	国際学研究科	博士課程	3
教育学部	170	教育学研究科	専門職学位課程	18
工学部	315	工学研究科	博士課程	30
農学部	195			
合計	910	合計		386

- 在籍者数【R1.5.1現在（単位：人）以下同じ ※留学生（正規生）数は在籍者数の内数】

学部・研究科	課程	在籍者数（うち女性）	女性比率	留学生数（うち女性）
学部		4,053 (1,601)	39.5%	49 (19)
研究科	修士課程 博士前期課程	730 (178)	24.4%	112 (59)
	専門職学位課程	34 (19)	55.9%	
	博士後期課程	96 (18)	18.8%	
合計		4,913 (1,816)	37.0%	161 (78)

- 進路状況【H30年度 学部卒】

区分・員数					合計
進学（大学院・その他）					317
就職	製造	114	情報通信	60	608
	教員	99	建設	34	
	公務員	116	金融・保険	20	
	サービス	76	運輸・郵便	15	
	卸・小売	45	その他	29	
その他					44
合計					969

- 教職員数

区分	員数
役員（非常勤監事2を含む）	7
大学教員	342
附属学校教諭	84
事務系職員	208
合計	641

- 就職率（学部卒）

H31.3卒	H30.3卒	H29.3卒
98.5%	99.0%	98.2%



国立大学法人 宇都宮大学【学長：石田朋靖（第20代・21代）】
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350【JR宇都宮駅～南東2.2km】
宇都宮大学設置【1949年(昭和24年)5月31日 国立学校設置法】
国立大学法人宇都宮大学設置【2004年(平成16年)4月1日 国立大学法人法】



宇都宮大学は令和元年
(2019年) 創立70周年
を迎えます

－地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い－

<宇都宮大学のモットー>



国立大学法人

宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY